会話のテンポ 音声で分析

村田製作所 来春の製品化目指す

村田製作所が開発した、場の雰囲気や会話のテンポなどの分析システムを使って面談する様子

村田製作所（京都府長岡京市）は、場の雰囲気や会話のテンポなどの盛り上がり具合を音声から分析するシステムを開発した。会議をだらだらと長引かせず活発に進められるようにして働き方改革につなげたり、飲食店や小売店で店内の雰囲気を把握することで接客サービスの質を高めたりするのに活用する。来年春の製品化を目指している。

全方位の音声を集めるマイクが会議室や店内の会話を拾い、発言者ごとに会話の長さやボリューム、テンポ、トーンを担当者が分析する仕組み。会議や面談でコミュニケーションが円滑かどうかをチェックして改善に役立てたり、飲食店で会話の盛り上がっているテーブルにこまめに注文を取りに行くなど接客を工夫したりできる。

例えば会議では、発言者が特定の人に偏っていないかや、発言が長すぎたりしないかを解析。声のトーンなどから出席者の感情の状態も分析して、議論の活発さを判定できるようにする。

保育園などで音声から子どもたちの様子を把握して、職員が見守りに役立てるなどの使い方もできる。

北野天満宮で歌舞伎塾

彬子さま設立団体、250人に解説

歌舞伎の化粧の仕方の実演を見る子供たち＝京都市上京区

故寛仁親王の長女、彬子さま(36)が設立された団体「心游舎（しんゆうしゃ）」などが27日、京都市上京区の北野天満宮で歌舞伎俳優の中村勘九郎さん(36)と弟の七之助さん(35)による「歌舞伎塾」を開いた。彬子さまは、参加した子供から大人まで約250人と一緒に、2人による歌舞伎の解説や実際の舞台を楽しまれた。

兄弟の父で平成24年に亡くなった中村勘三郎さんと親交があった彬子さまは開演前、あいさつに立ち「勘三郎さんは生前、『北野天満宮で奉納歌舞伎をしたいんだよ』と話していた。第2の父のように思っていたので、最後の親孝行ができる」と涙をぬぐわれた。

歌舞伎塾では、勘九郎さんと七之助さんが化粧の仕方や見えの切り方などを実演しながら解説し、子供たちも挑戦した。その後、奉納舞「橋弁慶」が披露された。

心游舎は12年、彬子さまが子供たちに日本の伝統文化を伝えるために仲間らと設立された。月に1回程度、各地でワークショップを開いている。

琥珀色のトーク ～PART2～

コーヒーの「第4の波」

日本はEU、アメリカ、ブラジルに次ぐ世界4位のコーヒー消費国だ。何がここまで日本人をコーヒー好きにしたのだろうか。改めて日本のコーヒー史に起こってきた大きな変化について考えてみよう。

戦後の経済成長が牽引（けんいん）した喫茶店ブームを「第1の波」とすると、「第2の波」は1990年代後半に始まるシアトル系カフェ。そして2000年代に入り、素材の特性を見極め、香味の個性を引き出して楽しむスペシャルティコーヒーのムーブメントを「第3の波」とすることができるだろう。飲用機会の増加によるコーヒーの普及、そして多様化、さらに個性化の3つの波が重なりあって今に続いている。

▲コーヒーの「第4の波」とは…

この間、コーヒーの品質や焙煎（ばいせん）・粉砕・抽出の技術が向上し、香味の改善がなされ、コンビニでも淹（い）れたてのおいしいコーヒーを手軽に飲めるようになってきた。では次にやってくる「第4の波」とはどのようなものだろうか。筆者の脳裏には「健・美」という2文字が浮かんでくる。

歴史を振り返ると、コーヒーが薬として用いられた時代があった。日本でも幕末に津軽の藩兵がコーヒーを携えて北方の守りにつき、浮腫（むくみ）を防ぎながら越冬したという記録が残されている。近年、世界各国の研究機関からコーヒーの健康効果、疾病抑制効果が報告されている。またストレス緩和やダイエットなど精神面、美容面についても研究が進んでいるようだ。

筆者は長年にわたり大学の理学部で教鞭（きょうべん）をとってきた理系人間だが、無類のコーヒー好き。そこでコーヒーの科学を研究し、専門の水素を活用し、酸化によるコーヒーの品質劣化を防止する「非酸化焙煎（ばいせん）技術」を開発するに至った。「健・美」とともにコーヒーに対する科学的、技術的なアプローチによって、さらにコーヒーの可能性を広げ「第4の波」をつくり出すことを日々思い描いている。

（日本コーヒー文化学会会長、金沢大学名誉教授 廣瀬幸雄）

おすすめスポット

日本はEU、アメリカ、ブラジルに次ぐ世界4位のコーヒー消費国だ。何がここまで日本人をコーヒー好きにしたのだろうか。改めて日本のコーヒー史に起こってきた大きな変化について考えてみよう。

戦後の経済成長が牽引（けんいん）した喫茶店ブームを「第1の波」とすると、「第2の波」は1990年代後半に始まるシアトル系カフェ。そして2000年代に入り、素材の特性を見極め、香味の個性を引き出して楽しむスペシャルティコーヒーのムーブメントを「第3の波」とすることができるだろう。飲用機会の増加によるコーヒーの普及、そして多様化、さらに個性化の3つの波が重なりあって今に続いている。

▲コーヒーの「第4の波」とは…

この間、コーヒーの品質や焙煎・粉砕・抽出の技術が向上し、香味の改善がなされ、コンビニでも淹れたてのおいしいコーヒーを手軽に飲めるようになってきた。では次にやってくる「第4の波」とはどのようなものだろうか。筆者の脳裏には「健・美」という2文字が浮かんでくる。

歴史を振り返ると、コーヒーが薬として用いられた時代があった。日本でも幕末に津軽の藩兵がコーヒーを携えて北方の守りにつき、浮腫（むくみ）を防ぎながら越冬したという記録が残されている。近年、世界各国の研究機関からコーヒーの健康効果、疾病抑制効果が報告されている。またストレス緩和やダイエットなど精神面、美容面についても研究が進んでいるようだ。

筆者は長年にわたり大学の理学部で教鞭をとってきた理系人間だが、無類のコーヒー好き。そこでコーヒーの科学を研究し、専門の水素を活用し、酸化によるコーヒーの品質劣化を防止する「非酸化焙煎技術」を開発するに至った。「健・美」とともにコーヒーに対する科学的、技術的なアプローチによって、さらにコーヒーの可能性を広げ「第4の波」をつくり出すことを日々思い描いている。

（日本コーヒー文化学会会長、金沢大学名誉教授 廣瀬幸雄）

key person キーパーソン

COMMED代表

木﨑淳一郎さん(34)

潜在看護師と妊産婦つなぐ

出産や子育てなどで医療現場を離れた「潜在看護師」と、赤ちゃんを持ち看護師らによる助言がほしい母親をつなぐ事業を始めた若手経営者。健康ニーズが高まる一方で医療職が不足している現状を改善しようと、今までにない新しい人材サービスを作り出した。「健康への関心は高まっているが、インターネット社会にはいろんな情報があふれていて本当の健康に近づけていない」と、京都から地域医療の充実を目指す。

きざき・じゅんいちろう　昭和59年、京都市生まれ。慶応大総合政策学部卒。米金融大手など3社での勤務を経て昨年、京都で医療サービスのベンチャー「COMMED（コメッド）」を立ち上げた。社名は、「地域医療（Community Medicine）を充実させたい」との思いから名付けた。

■医療一家から起業

生まれてから小学校卒業まで京都市で育ち、中高生時代を福岡県で過ごした。慶応大を卒業した後は金融系など東京の企業に勤務。京都に戻ってきたのは実に22年ぶりだ。

なぜ異業種から医療系の仕事へ転身しようと思ったのか。「父親が小児科医をしていることから医療に関心があり、会社経営にも興味を持っていたことが大きかった」。親族にも医療関係者が多く、人脈がある京都で会社を立ち上げることを決めたという。

昨年設立した医療サービス会社のCOMMED（コメッド、京都市中京区）は、「育児や赤ちゃんの健康について相談したい」という産後の女性の下へ「出産や介護などで離職したが、空き時間を利用して働きたい」という看護師を派遣する。こうしたマッチングサービス「ホームケア」を、京都市と乙訓地域（長岡京市、向日市、大山崎町）で提供している。

▲潜在看護師が柔軟に働きたいというニーズは強く、高齢者を対象にしたサービスも検討している ＝京都市中京区

授乳、離乳食、歯のお手入れなど相談できる内容はさまざま。利用者はホームページから利用したい分野を選択し、看護師や助産師、管理栄養士などに自宅や「ママ会」へ来てもらえる。

現在はサービスの対象を妊産婦に限定しているが、「外出時の付き添いなど介護保険適用外のケアを希望する高齢者や、健康相談をしたい中高年へ向けたサービスも今後開発したい」と先を見据える。

■求人のミスマッチ

「ホームケア」を始めた背景には、在宅医療の需要が増えていく高齢化社会で、看護師不足にもかかわらず、看護師の就職においてミスマッチが多発していることへの危機感があった。看護師などの医療職は女性が大半を占める。家庭との兼ね合いもあり、夜勤がある病院勤務が難しいため非常勤で働いたり、資格があるのに離職していたりする人が多い。

厚生労働省の調査によると、看護師の8割が非正規職を希望する一方、正規職の求人が多いため実際は8割がフルタイムで働いているという。さらに、看護師免許を持つ225万人のうち、約3割の71万人が潜在看護師に当たるとされる。

■地域医療を支える

加えて、看護師が最も不足しているのが地域医療を支える訪問看護ステーションだ。このため「高齢化に伴い医療費や社会保障費はパンパンで、病院のベッド数は増やせない。医療機関だけでなく、地域での医療がますます必要とされる」と確信した。

「人材供給ができる会社をつくりたい。時間や場所にとらわれず、看護師が家庭と仕事を両立できる仕組みを構築できないか」

看護師紹介会社で勤務していた際の知見もあったことから、需要が多いと思われる乳幼児の母親を対象にしたサービスから始めようと思い立った。

「ホームケア」を始めてからこの2カ月間で、利用した人からは「病院を受診して聞くほどではない産後の悩みをゆっくり相談できた」などの声が寄せられている。健康に関する情報があふれるなか「正しい医療の知識を持っている人がサポートするのが理想の姿」と考える。

今後は、地域の産婦人科を退院する産婦に「ホームケア」を紹介してもらうことや、東京や大阪への進出も視野に入れている。「世の中のニーズをマッチングさせられることはうれしい。病院外で健康をサポートする価値を世の中にもっと浸透させられたら」。少子高齢化社会への挑戦はまだ始まったばかりだ。

文・写真 南里咲

SUNART

やっぱり寒さ対策はこれで決まり!
今なら即納OK!お早めに!

マイクロカーボンファイバーヒーター 内蔵
毎年大ヒット商品!「ベスト」「ブルゾン」

首・背中・腰まで
衝撃の暖かさ!!
約10秒感熱!!

10秒あればぽっかぽか!

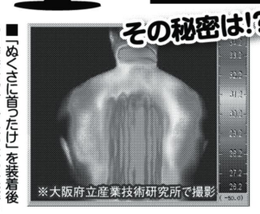
ぬくさに首ったけ

電源を入れると、即ダイレクトに伝わる本物の暖かさ! 熱いくらいの高温度から、心地よい温度まで「強／中／弱」の3段切り替え。寒さ知らずで、しかも薄くて軽く着心地も満点!

ヒーター内蔵「ベスト」
14,800円（税抜）
サイズ：SS／S／M／L／LL

※低電圧仕様なので、濡れても感電の恐れはありません。

TVで紹介されました!
暖か過ぎると話題に!



■「ぬくさに首ったけ」を装着後の温度変化（3分後の体の状態）。

NEW マイクロカーボンファイバーヒーター

繊維のようにしなやかで強靭。
驚異の熱伝導率で高い放射率の
遠赤外線が、効率良く暖めます。

毎日満充電しても電気代1ヶ月約16円
フル充電から最長約7時間の連続使用
※ウェアタイプ

ヒーター内蔵で日本の冬をもっと暖かく!!

「おててのこたつ」
約10秒感熱!おてて全体を包み込む温かさ!
指周囲全体と手の甲にヒーターをW装着!!
軽くてしなやか。違和感無く利用可能
おてのこたつ（グローブ） 12,800円（税抜）
サイズ：SM（約23cm）/ ML（約26cm）※手囲

「ニットブルゾン」「ニットベスト」
ニットタイプの「ぬくさに首ったけ」。首後部と背中から腰に、実績の「ぬくさに首ったけ」ヒートシステム採用。
ニットブルゾン（ケーブル） 29,800円（税抜）
サイズ：S／M／L／LL
ニットベスト（千鳥） 18,000円（税抜）
サイズ：SS／S／M／L／LL

ほかにも「3WAY巻きスカート」「ボディベルト」「ほっこリッパ（スリッパ）」「はんてん」「ショートマフラー」「ベンチコート」など、多彩なラインナップ!

ご注文・お問い合わせはこちら
お電話の際はまず「新聞広告を見た」とお申し出いただくと手続きがスムーズです。
通話料無料 0120-262-850 お客様窓口 9:00～17:00 土・日・祝日を除く
ほかにも新アイテムが続々!詳しくはHPをご覧ください!! クマガイ電工
送料・代引手数料無料
取り扱い店も随時募集中!
■お支払い／代金引換のみ■お届け時期／ご注文後一週間以内■返品について／商品が不良品の場合やご注文と異なる商品が到着した場合は、返品・交換の受付をいたします。商品到着後7日以内にご連絡ください。なお、送料は弊社が負担いたします。※お客様からお預かりした個人情報は、本件以外には使用いたしません。
製造・販売元
KUMAGAI クマガイ電工株式会社
〒581-0077 大阪府八尾市西久宝寺190番地の1
TEL 072(992)6611(代) FAX 072(993)7772
URL: http://www.kumagai-dk.jp E-mail : info@kumagai-dk.jp